

講演会「そのとき、日本は何人養える？」 食料安全保障から考える社会のしくみ

食料品が急激に値上がりしています。戦争や円安、資源価格の高騰など要因は様々ですが、輸入で何でも安く手に入る社会は当たり前でなくなりつつあります。どうすればこれからの日本は石油依存型農業から脱却し、自国での食料自給率を高めていけるでしょうか。日本の農業の現状から食料安全保障について考えてみませんか。

【日時】2024年2月4日(日) 13:30~15:30

【会場】キラリエ草津 5階 501会議室
(JR「草津駅」東口から徒歩5分)

【講師】農学博士 篠原 信^{まこと} 先生

- ★参加無料(定員:会場30人 / Web30人)
- ※参加ご希望の方は2024年1月29日(月)までに参加者氏名、連絡先、メールアドレス(Web参加の場合)を事務局にご連絡ください。
- ※会場駐車場は満車になる場合があります。できるだけ公共交通機関をご利用ください。

篠原 信(しのはら・まこと) 先生略歴

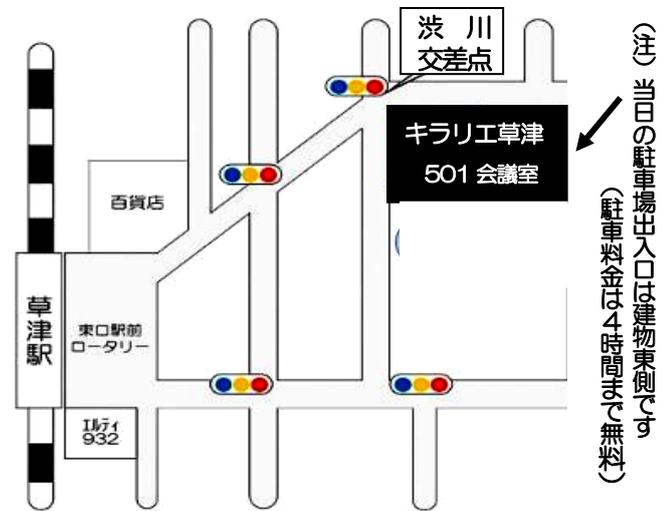
1995年京都大学卒業。京都大学博士(農学)。農業研究者。有機質肥料活用型養液栽培および土壌創製技術を開発。「2012年度農林水産研究成果10大トピックス」を受賞。研究の傍ら、食料問題を調査、レポート「日本は何人養える?」をまとめた(2003)。著書に『そのとき、日本は何人養える? 食料安全保障から考える社会のしくみ』(家の光協会2022)、『自分の頭で考えて動く部下の育て方 上司1年生の教科書』(文響社)、『子どもの地頭とやる気が育つおもしろい方法』(朝日新聞出版)、『ひらめかない人のためのイノベーションの技法』(実務教育出版)、『思考の枠を超える—自分の「思い込み」の外にある「アイデア」を見つける方法』(日本実業出版社)。

【講師からのメッセージ】

私たちは石油を食べている。コメ1kcalを作るのに2.6kcalのエネルギーを消費している。エネルギー的には大赤字、コメはで石油でできていると言って過言ではない。化学農薬、トラクターの燃料、化学肥料。これらはすべて石油などの化石燃料から製造されている。石油がふんだんに採れる時代だからこそ可能なこの方法は、未来永劫続けられるのだろうか?

石油時代の初頭、採掘に1のエネルギーを投資すれば200倍のエネルギーの石油が採れた。しかし今や10倍を切る。3倍を切ると、ガソリンなどに加工するエネルギーが足りず、石油を採れば採るほどエネルギーが赤字になる。そんな未来が見え始めている中、「石油を食べる」農業は続けられるのだろうか?

【会場地図】



滋賀県保険医協会行き FAX 077-525-3093 (TEL 077-522-1152)

講演会「そのとき、日本は何人養える?」参加申込書

参加者氏名		参加方法	会場 ・ Web
TEL		FAX	
メールアドレス (Web参加の場合)			

主催：滋賀県保険医協会 公害環境部 (大津市浜大津 2-1-36)